

令和6年度 中町北小学校 学校評価シート 2025.3.3

学校教育目標 人権尊重の心を持ち 仲間とともに 意欲的に学ぶ ふるさと大好き 中北っ子の育成		<学校自己評価> A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない (黄)			本年度の重点目標 ①豊かな心の育成・・・「命と人権」の尊重を根底に、いじめ防止基本方針をもとに、いじめの未然防止・早期発見・早期対応 ②確かな学力の育成・・・「中北学力向上プラン」「中北スタンダード」の活用 ③健やかな体の育成・・・「早寝・早起き・朝ご飯」、「基本的な生活習慣」の確立 ④信頼される開かれた学				
評価の領域	項目	教職員済み	児童済み	保護者済み	総合 評価	アンケート分析 (R6)		学校関係者評価 (R6)	
						○：考察（今年度の取組と分析）	◎：来年度へ向けての改善案（方策）	コメント	
ア	学校組織・運営	教育目標の推進 組織・チーム	4(±0)			A	○中北小のよさである組織的対応を大切にした取組が継続できた。それぞれの教職員のよさをお互いに学び合う姿勢があり、全職員で情報を共有できる風土により、チームとして働きやすい環境ができている。それによって、児童への対応も一人で抱え込まず、多くの意見を参考に進めることができていた。 ○校務分掌については、年間計画を立て教育目標の具現化を図ることができた。経験のある教職員がリーダーシップを発揮し、若い先生方へ分掌を引継ぎながら、遂行することができた。 ○行事や取り組みの精選を選ったことで、勤務時間の適正化を図れる職員が増えてきた。	◎様々な課題をもつ児童がたぐさいるので、その分人手が必要である。学校内外の連携を継続し、さらに強くしていきたい。 ◎来年度には、分掌の内容を吟味し担当者を配置することや、負担が大きい分掌は、担当者を複数配置することにより、負担を分けるようにしたい。 ◎学校教育目標の児童像を達成するために、行事や授業の改善を進めるとともに勤務の適正化について学校改革推進委員会を開催する。	・人手は足りているのか。 →新たにスクールラブを増員していただき校内サポートルームを開設することができた。 ・職員の間関係はどうか。 →良好。よく情報共有している。必要なことについては、職タを週2回開いて情報共有している。また、パソコンのチャットを活用して、予め伝えたいことは打ち込んでいるので、短時間でこなしている。児童のことや授業のことなどは放課後にもよく話している。 ・お互いが抱えていることを自由に発言ができる職場がいい。なかなかいいにくいようなことも自由に言い合える場がいい。
	校務分掌の適切な分担と職務の遂行	3.5(±0)			◎学級経営案を作成し、見通しをもって学級経営に取り組む。 ◎単学級だが、近似学年やいろいろな立場の職員とコミュニケーションをとりながら児童理解を深め、学級経営に活かすことができた。 ○経営案をもとに学級経営交流会を持ち、互いの方針を情報交換したので、児童への指導においても生かすことができた。また年度末には1年間の学級経営について振り返り、全体で共有し、次年度へつなぐことができた。		◎学級経営交流会を行う。単学級なので、年度途中に情報交換をし、実際に生かしたり経営案を見直したりしていく。また、年度末には1年間の学級経営について振り返り、全体で共有する。	・見通しを持った取り組みができているのがいい。 ・中北小は単学級なので、近似学年で相談しながら進めてほしい。	
	勤務時間の適正化	3.2(±0.2)			○特別支援学級の児童数の大幅な増の中、担任と交流学級担任、また生活補助員との情報共有など連携し、児童の実態に合わせ柔軟に教育課程を組むことができた。また、保護者との連携もスムーズに行き、児童が安心して学校生活をおくる事ができた。 ○校内研修会に外部の講師を招聘し、通常学級に在籍する児童の支援について理解を深めることができた。		◎北はりま特別支援学校等外部の専門機関と連携して、児童の特性に起因する困り感等を正確に把握し、効果的な支援を行っていく。 ◎定期的に全教職員の情報交換の場を設け、共通理解のもと児童の支援にあたるようにする。また、定期的な校内支援委員会を開くなどし、通常学級で支援を要する児童について、どのようにきめ細やかな支援ができるか、手立ての相談ができる場を持つていくことも大切であると考える。	特別支援学級は何人いるのか。 →今は11人。知的学級6人、情緒学級6人。司の方から2人支援員が配置されている。	
エ	学力向上	分かる授業づくり	3.6(±0.4)	3.5(±0.1)	3.6(±0.1)	A	○「わかった!できた!から自ら学ぶ姿へ」を研究テーマに、めざす子ども像でも像である「自ら学ぶ子」とは具体的にどのようなことができる子かを教職員で共有し、実践を積み重ねてきた。また今年度は「多可町授業づくりの10ポイント」の中で「既習事項をふり返る。◎可視化(板書)の工夫、◎振り返りの充実、の3ポイントを重点的に意識した授業づくりを行ってきた。来年度につなげる。 ○朝学習の取組や家庭学習等の継続した取組の結果、基礎基本の学力が定着してきている。 ○家庭学習ががんばり週間で、学習時間のクラス平均が目標時間(15分×学年)をほとんどの学年が達成できた。	◎さらに「わかった!できた!」が感じられる授業。そして「自ら学ぶ子」を目指して、これまでの取組(「多可町10ポイント」を活用した授業づくり・基礎基本の定着をめざした取組・家庭学習の取組など)を教職員で共有し、学び合いながら継続していく。	・朝の学習タイムにはどんなことをしているのか。 →漢字や速読など語彙を行っている。 →それは漢字なんですか →朝のタイムは1回15分行い、3日すると45分になるので、1時間の授業を1たこととして数えている。 ・昨年より一時間減ることになり、子どもが早く帰ることもなる。5時間授業の日の登壇や学習の目的は何か。 →自校は子どもの数が少ない。低学年の児童がひとり、ふたりと少人数で下校することがないようにしています。多くの学年が6時間学習する日は、低学年は、放課後子ども広場やがんばりタイムを行い、集団下校できるようにしている。
	基礎基本の学力の定着	3.8(±0.5)							
	家庭学習記録の活用 家庭学習の習慣化	3.3(±0)	3.8(±0.1)	3.1(±0)					
オ	健康教育	食育の推進 児童への指導、保護者への啓発 2人1組一対一対応	3.3(±0.5)	3.8(±0)	3.7(±0)	A	○栄養教育による食育や、給食センターの見学を通して野菜や魚に対する苦手意識の軽減や、改めて給食を作っていたということへの感謝の気持ちを持つことができた。 ○健康委員会の児童とともに、給食時の服装や片付けの仕方など衛生面に気をつけるよう声かけをしたり、階段は1段ずつ上り下りすることや廊下は走らないことなどを記載したポスターを作成し、事故やケガを防ぐ取り組みを行った。 ○ここ数年は感染症や警報などで実施できなかった給食試食会を数年ぶりに開催することができ、保護者の方に給食について知っていただく良い機会となった。 ○熱中症対策については、今年度も置きベットボトルやWBGT指数の測定、ミストシャワーなども設置し、熱中症の予防に努めた。 ○体力アップサポート授業を活用し、児童の体力アップだけでなく、ソフトボール投げや器械運動の指導法を職員で共有することができた。 ○運動場の50メートル走のポイントを一新し環境を整えた。	◎給食センターと連携し、学校だけでなく家庭でもできる食育の取組を考えていきたい。 ◎健康委員会の児童とともに、給食時の衛生面に関する指導を継続していく。 ◎小学校で行われるSDGsに向けた取り組みとして、残食チェックを実施している。これからは児童に無理のない程度に指導を継続していく。 ◎感染症対策や熱中症対策など、マンネリ化しないよう意識して、これからも健康安全対策を行っていく。 ◎今後も体力アップサポーター事業を継続し、児童の体力アップだけでなく、教員向けの研修などを取り入れることで指導力向上を図りたい。具体的な種目については教員からの意見を参考にする。 ◎年間指導計画を元に器具の準備や片付けなどを計画的に行い、安全に配慮した環境整備を行いたい。	・他校に比べ、学級閉鎖が少なかったには何か特別な取り組みがあったのか。 →特にはありません。換気、手洗いを続けるよう、声をかけてきたくらいです。 学校保健委員会では、治癒報告に対する受診率の低さについて話をしました。たとえば、元アレルギーで受診をしているのに、アレルギーの出ていない時に受診するよう勧められもすぐに受診せず、また次の受診時にとまって後回しにしたり、その間に報告を怠っていたりするなど、いろんなケースがあるという話がありました。 ・治癒報告をしても返事がない理由はいろいろあると思うが、そのままにせず、なぜそうなっているのかを確認することも大切ではないか。 ・体力アップサポーターの活用はよかった。やはり、技術は教えてもらわないと身につかないと思う。
	健康安全対策	3.9(±0.5)							
	運動能力・ 体力向上の取組の充実	3.5(±0.3)	3.5(±0.1)	3.2(±0)					
カ	図書館教育	児童の読書量増進の指導や手立て	3.2(±0)	3.1(±0.1)	2.4(±0.1)	A	○読み聞かせ(教師、図書委員)を行い、様々な本に触れるきっかけづくりとした。 ○図書館ボランティアの方々や図書室の環境づくりをしてくださったおかげで、居心地のよい空間となった。(今年度は、シリーズ本を手に取りやすい、また片付けやすいように工夫して下さった) ○痛みのある本や子どもたちが手に取らなくなったような本は廃棄し、新しい本を多く入れた。 ○多可町図書館との連携により、学習とリンクした本を設置できている。隙間時間に本を手にとる児童が増えている。 ○家庭における読書活動推進のためには、保護者への啓発が必要不可欠である。継続的な啓発が望まれる。 ○「Omokkol」をでタブレットを使って読めることで、子どもたちが気軽に本を開くことが出来ている。 ○対象学年の子どもに人気のある本を選び、学級文庫の入れかえを夏休みに行った。 ○あいあいさん(図書館読み聞かせボランティア)にも来ていただき、絵本や本、詩に触れる機会が増えた。	◎啓発活動を行っていく。(図書委員会によるスタンプラリー、読み聞かせ、本の紹介) ◎教師による読み聞かせの機会を、来年度も設定したい。 ◎図書館や図書館ボランティアの方々との連携を継続していく。 ◎図書室の環境調整を行うとともに、各教室で本が読めるよう読書環境作りを意識する。 ◎図書室の開放と、それを継続させるために継続的に指導を行っていく。 ◎新しい本が入ったときは、図書室通信などで知らせるなどした。 ◎読書名人の表彰を学期ごとに行い、読書ノートに書き習慣をつけた。	・子どもの活字離れが進んでいるので、今のような取り組みを続けてほしい。 →学校でこれだけ手立てをしていただいていることで安心している。子どもが学校で本を手にとっているところを見てもらう必要があるのではないかと。 ・「あすみる」を見てきました。ほんとに素敵なところで、ソファに座ったり、寝転んだりしてリラックスして本を読める。家庭で、あすみるを活用するようなり組みをしたらいいと思う。
キ	特別活動	年間を通した 学校行事での成果	4(±0.4)	3.6(±0.1)	3.4(±0)	A	○各行事において教師と児童が目標やめあてを共有し、確認しながら実施できていた。そのため、児童が真剣に取り組む、活躍できる場となった。 ○児童会によるあいさつやうし、あったかニュース、たてわり班遊びなど、児童の呼びかけにより取り組み、満足感を味わえた。 ○委員会の回数については、今年度の月一回の頻度が適切であった。	◎委員会活動や児童会活動では、それぞれの活動のめあてやねらいを児童と教員で定期的に共有し、自主的自治的に取り組むことが大切であることから、これからも引き続き委員会の時間を大切にしながら行っていく。 ◎取り組み後、児童と教員、教員同士でもより振り返りを行い引き継いでいきたい。	・そうじはきちんと取り組んでいますか。 →とりくめています。大人のようにきれいにはできませんが、しょう、としています。
	児童会・委員会活動	4(±0.8)	3.3(±0)						
ク	生活指導	いじめ防止の徹底	4(±0.5)	3.6(±0.1)	3.2(±0.1)	A	○いじめや問題行動については、迅速な情報共有や複数対応により、個々のケースに応じた細やかな対応ができた。 ○不登校対策では、担任や生活指導担当、養護教諭が欠席状況を確認したり、アセスメントシートを活用して定期的にケース会議を行ったりし、情報共有や個別の支援計画を立てて取り組んだ。 ○あいさつ名人認定の取組を継続し、あいさつの輪を広げる心を育いた。 ○「名前を大切に」ということを折に触れて指導し、くん・さん・づけで呼ぶ学校文化ができている。	◎生徒指導委員会、アイアタイム、生徒指導台帳を通して、今後も迅速な情報共有を目指す。生活相談シート(児童・保護者)での指導や情報共有をより徹底したい。 ◎不登校問題について、アセスメントシートを引き続き活用し、ケース会議を開き、複数見取りによる計画的かつ組織的な取り組みを根強く行っていく。また、可能な限りSLもケース会議に参加し、足並みをそろえた支援を継続したい。	・子どもたちはよくあいさつをしている。 ・あいさつ名人は誰が進んでいるのか。 →生徒指導委員会が進んでいます。子どもたちの中からも「あいさつ上手」を選んでいます。 ・それが励みになる子はいないか、「自分はいあいさつをしているのに、先生に褒めてもらえない」と、感じる子もいるのではないかと。 →その視点を忘れず取り組んでいきたいと思います。
	あいさつ運動	4(±0.1)	3.7(±0)	3.1(±0.1)					
	言葉づかい	3.8(±0.2)	3.4(±0.1)	2.8(±0)					
ケ	情報教育	ICT機器の活用	3.3(±0.9)	3.6(±0.1)	3.1(±0.1)	B	○年度当初に、クロームブックの使用(時間や場所等)の共通理解事項を全職員で確め、足並みをそろえた。 ○年間指導計画はももろのこと、情報モラル教材の紹介やプログラミング教育の指導資料を提示し、取り組みやすいようにした。 ○プログラミング教育の研修を講師を招いて行った。また、レゴを使用することで、各学年の学習時期を調整し、薄くなり学ぶようにした。 ○困ったことを聞いた時、指導しに入りたいだけというよう、ICT支援員の訪問に関する事前調査を継続的に行った。 ○情報モラルの研修を見直し保護者に行い、子どもたちを取り巻く現状と問題について保護者とともに学ぶ機会をつくった。	◎情報モラルやプログラミング教育の時間を確保するため、鼓舞を含めた総合的な学習の時間の在り方を見直していく必要がある。 ◎定期的なクロームブックの持ち帰りを行い、日常的な活用を増やして積み上げていく。 ◎どの学級においても月1回以上のICT支援員活用に向けた取組を計画し、実行していく。 ◎情報モラル学習の徹底と保護者啓発を研修等で行っていく。	・情報モラル研修はどのように行ったのか。 →一方の方でネットパトロールをされているの専門の方に教えて頂きました。校内ではSNSトラブルが一件、悪口を書く、ということがあります。近年子どもたちのSNSの利用について、海外では使用禁止になったり、日本でも企業の方から新しい規制が入ったりするということが増えてきています。私たち大人が正しいかといけなといういけな
	情報モラル	3.3(±0.9)	3.5(±0)	2.8(±0.1)					
コ	人権教育	人権態度の育成、豊かな人間関係、福祉の心、思いやりの心の育成	3.6(±0)	3.7(±0)	3.3(±0)	A	○道徳の授業研究が毎年設定されているため、共に、授業作りについて考えられる良い機会となっている。 ○ゲストティーチャーを招いて体験活動を通して、福祉の心、思いやりの心を育成する機会が持てた。 ○うれしかったり満足やあいさつ運動、人権集会などのあらゆる場面で全校的な取組ができた。また、人権作品を制作する過程で人権について考える機会が持てた。 ○生徒指導台帳やアイアタイム、気になる児童の情報交換が定着している。職員全員で、関わりを持っていくとする意識が持てている。 ○学校行事や授業など様々な場面で、自尊感情を高められるような声かけを教師が意識してできているよう努めることができた。 ○すずかけ学級の学びについては、さらに人権意識の高揚を図る取り組みをしていきたい。	◎全校的な取組や全職員での情報共有、個別の関わりは今後も継続していく必要がある。 ◎児童の自尊感情の向上や人権意識を高めていくために、今後も継続して日常的な声かけや授業での学び合いの場面づくりに取り組んでいきたい。また、苦手なこと、がんばってもできないことはそれぞれあるが、努力できているところを認めて声かけをできる雰囲気や、個々の良いところや、頑張りを認め合う学級づくりを目指す。 ○すずかけ学級の事業については、実施主体である教育委員会と協力し、人権意識を高めていけるような内容となるよう、計画を立てていく。	・いじめと人権の日にはどんなことをしているのか。 →朝会で人権を尊重し、話をしている。児童会の子も子どもたちを中心に、子ども憲章を唱和しています。また、各担任も意識して人権を大切にすることにつながる話をしている。 ・校長室の入り口に書いてある言葉を読みと、お話をされた内容を推測することができる。それに、目にするだけで意識することができ児童にとってもよいと感じる。 →低学年には難しい話になってしまいうことある。教室で子どもたちに分かるようにかみ砕いて伝えてもらえたらありがたい。 ・人権の話を折に触れて聞けるのがいい。
サ	安全・防災教育	安全意識、防災意識 校内の安全点検	3.3(±0.4)		3.4(±0)	B	○校内安全点検の点検場所を、学年層で月ごとに交代しながら行った。様々な目線から点検箇所を見てチェックをすることができた。 ○引渡訓練でクロームブックを活用し、担任と保護者が直接接点を含めることで確実な引き渡しを意識して行うことができた。 ○月に1回、登校指導と下校指導を行い、登下校の状態把握に努めた。週1回のミニ地区児童会でも指導を行った。 ○防災について消防署の方を講師に招いて職員研修を行い、校内の防災設備の活用と火災発生時の初期対応について学ぶことができた。	◎安全点検箇所にも更衣室やトイレも加えて目が行き届くようにする。 ◎新1年生も早期に避難方法を学ぶため、避難訓練の時期や内容を検討する。 ◎避難意識を高めたため、短縮した避難訓練を月に1回、定期的に行う。 ◎交通安全教室で登校坂で歩行訓練を行う。	・避難訓練はどれくらいの頻度で行っているのか。 →学期に一回。 ・多可町は、穏やかなところなので、危機意識があまりないと思う。子どもたちは、将来どこで暮らすかわからない。いつ、どこで災害が起きてもいいように、対応訓練をしてあげてほしい。 →今の避難訓練は、避難して運動場に集まって点呼してから校長の話があって、と、時間がかかる。もっとコンパクトに、集まって点呼して解散、というふうなものをしてほしいと思う。いろんな想定をして避難訓練を行っていくたい。
	登下校状態の把握と指導 安全な登下校	3.5(±0)	3.7(±0.1)	3.4(±0.1)					
シ	環境	環境設備の整理と環境づくり	3.2(±0.1)		3.4(±0)	B	○教室の床、窓など、修繕箇所が多く、重要性や必要性から修繕を実施している。 ○教室や特別教室のデジタル化を進め、学習に集中できる環境づくりを整備している。 ○ICTを活用した授業づくりにより、掲示物もデジタル化され、業務の効率化が図られている。	◎施設の修繕については、引き続き取り組んでいく。また、整理整頓、必要のないもの、使い終わったものはすぐに片づける、異常があればその都度修繕したり、担当まで報告する等、一人一人が意識する。 ◎各学年で活用したデジタル資料は、必要に応じて取り出せるように学校として蓄積・整理していく。 ◎掲示物が古くなってきたものは更新していく。	・あいさつをしつかりしていると防犯対策にもなっているとい聞くと、あいさつは大事だ。 →修繕箇所が多い、必要性の高いことから修繕を行っている。古い建物なので備品があちこちに出ている。道具の安全点検をしていると、現段階では大丈夫だと言った方がよい、というものが多く、防犯からみて、どこからでも学校に入れる作りになっているのが気になると、どう意見が通ずるかわからない。外から見えない重要なような作りになっているのは難しい。
ス	保護者との連携	通信でやり取りの情報発信 保護者や地域の意見をよく聞く	3.3(±0.6)	3.5(±0.2)	3.3(±0.1)	B	○HPや学校だより、学年通信などで学校の願いを伝えることを継続していく。 ○子ども達の姿を保護者と共有できるように丁寧に伝えていく。 ◎地域ボランティア募集を継続し、コミスクを中心に地域に開かれた学校作りを進めていく。	◎HPや学校だより、学年通信などで学校の願いを伝えることを継続していく。 ○子ども達の姿を保護者と共有できるように丁寧に伝えていく。 ◎地域ボランティア募集を継続し、コミスクを中心に地域に開かれた学校作りを進めていく。	・昔は通信を多く出す時間があるから、もっと子どもとかわかってほしいと思っていたけれども、通信を見て、子どもがそれを見て励みになるように、家庭での会話が広がったように思う。孫が自分の文を載せてもらったと嬉しそうに報喜してくれる。 ・親子で通信を楽しみにしている。通信を通して子どもとの会話につながっている。
セ	その他	学校が楽しい	3.4(±0.1)	3.5(±0)		A	○ほとんどの児童、家庭が、学校が楽しいと感じているが、学校が楽しくない・不満足の評価も一定数いる。子どもが困り感を安心感に替えられるよう、丁寧な関係づくりと、SC等専門機関と連携を図りながら児童や保護者に寄り添った関わりをすすめていく必要がある。	◎学習のものを楽しくもうとする児童の育成を図る。 ◎一生懸命にすることで獲得した学びの喜びやその過程を仲間と楽しむことができるよう教職員も寄り添っていく。 ◎職員研修の充実を図り、職員の資質向上を図る。	・心の豊満さづくりを楽しくしてもらえたら。 ・全体的によい学校だと感じる。 ・整えてもらっていると思う。
	学校教員に満足			3.4(±0.1)					